

基本目標・重要業績評価指標（KPI）の現状値一覧（令和4年度）

I 圏域全体の経済成長のけん引

基本目標	指標	基準値(R2)	現状値(R4)	目標値(R8)
	圏域内総生産額	4兆7,524億円 (H30)	4兆6,636億円 (R2)	4兆7,524億円 (R4)
圏域内観光入込客数	19,043千人 (R1・暦年)	11,067千人 (R3・暦年)	11,067千人 (R4・暦年)	23,000千人 (R8・暦年)

評価の基準

- ◎:現状値が目標値を達成している
- :目標値に達していないものの、基準値に対し、上昇している
- △:目標値に達していないものの、基準値に対し、横ばいである
(変動率±0.5%の範囲内)
- ×:目標値に達しておらず、基準値に対し、低下している
- :事業の実施前等により評価不能

事務事業名	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R2)	現状値(R4)	目標値(R8)	基準値に対する現状値の評価(目標値に達している場合は目標値に対する評価) ※基準値がないものは基準値を0とする	
						状況認識・要因分析等
①スタートアップ企業支援	拠点で開催されるイベント参加者数	1,800人	1,245人	2,000人	×	当初の想定よりも、市外からの参加者数を伸ばすことができなかったことが要因の一つと考えられる。岡山市として情報発信を強化するとともに、スタートアップ関連のイベント等の広報周知に連携市町と相互協力する。
②中小企業の経営健全化・人材確保等支援	合同企業説明会への参加企業数	43社/年 (R1~R2)	52社	50社	◎	概ね予定どおり連携市町からの企業参加が得られ目標値を達成した。
	研修参加者人数	22人/回 (R1)	59人/回	30人/回	◎	コロナ禍前には、セミナーの開催方法がリアル開催のみであったが、令和4年度よりリアルとオンラインによるハイブリッド方式(令和3年度は、オンラインのみ)に変更したことにより、参加者が目標値の約2倍となり、効果があった。
③新規需要創出・喚起促進	PRセミナー参加者数	476人(累計) (H29~R2)	80人	500人(累計) (R4~R8)	×	当初の想定よりも、関連企業等の参加者数を伸ばすことができなかったこともあり、年間の目標100人を達成することができなかった。2市で協力し、広報の強化を行い、更なる集客に取り組む。
④特産農産物PR	PRイベントへの延べ参加生産者数	13者 (R3)	21者	18者	◎	基準値を上回る数値となっており、特産農産物のPRに繋がっている。
⑤食品製造業見本市共同出展	見本市会期中の出展1社あたり平均商談件数	90件/年 (H30~R1)	104件	100件	◎	来場者約2万5千人とコロナ禍以前の規模(約3万2千人)までは及ばないものの、コロナ禍が収束しつつある中でバイヤー/出展者双方による意欲的な商談が行われた結果として、初年度から目標水準に達した。
⑥圏域内周遊に向けた観光資源発信	圏域内観光入込客数	19,043千人 (R1・暦年)	11,067千人 (R3・暦年)	23,000千人 (R8・暦年)	×	新型コロナウイルス感染拡大による行動制限の影響を受け、目標値を達成することができなかった。
⑦岡山型穆斯林ツーリズムの推進	ムスリム観光客宿泊者数	1,812人 (R1)	513人	4,059人 (R7)	×	令和4年10月に水際対策が緩和され、外国人観光客の受け入れが本格的に再開されたが、コロナ前の基準までも達することができなかった。
	公式SNSのフォロワー数	12,000人 (R3)	29,934人	24,000人 (R7)	◎	岡山地域の認知度向上のため、SNS広告の掲出や現地旅行博で来場者にフォローを促したことにより、多くのフォロワーを獲得することができた。
⑧アートイベントの連携による情報発信	情報発信回数	5回 (R1)	5回	5回/年 (R4~R8)	◎	アートイベントのチラシ等を相互に共有し、広域での情報発信が行えた。

II 高次の都市機能の集積・強化

基本目標	指標	基準値(R2)	現状値(R4)	目標値(R8)
	JR岡山駅の乗降人数	13.9万人/日 (R1)	11.9万人	14.4万人/日

事務事業名	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R2)	現状値(R4)	目標値(R8)	基準値に対する現状値の評価(目標値に達している場合は目標値に対する評価) ※基準値がないものは基準値を0とする	
						状況認識・要因分析等
⑨市街地再開発事業の促進	歩行者通行量(旧銀ビル前)	1,143人/日(休日) 658人/日(平日) (H30)	706人/日(休日) 611人/日(平日)	3,600人/日(休日) 2,100人/日(平日) (R6)	×	コロナ禍による外出者の減少及び劇場の開館(R5.9.1)前であるため、事業効果がまだ発現していない。
⑩JRの利用促進と駅機能強化	JR岡山駅乗降客数	13.9万人/日 (R1)	11.9万人	14.4万人/日	×	コロナ禍にもかかわらず、R2(9.4万人)・R3(9.7万人)と比較して大きく回復しており、今後のさらなる利用増が期待される
⑪岡山市と連携市町を結ぶ基幹道路ネットワークの整備	要望活動の実績回数	10回 (R3)	10回	10回以上/年 (R4~R8)	◎	適切な時機に要望を行い、目標値を達成することができた。

Ⅲ 圏域全体の生活関連機能サービスの向上

基本目標	指標	基準値(R2)	現状値(R4)	目標値(R8)
	圏域内市町の転入超過者数	57人 (R1)	▲1,186人	226人

事務事業名	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R2)	現状値(R4)	目標値(R8)	基準値に対する現状値の評価(目標値に達している場合は目標値に対する評価) ※基準値がないものは基準値を0とする	
						状況認識・要因分析等
⑫高齢者見守りネットワーク連携	方針の決定	—	—	方針の決定 (R5)	—	—
⑬保育園等の広域入所	入所手続きに来る来庁回数が1回以内の相談者の割合	100%	100%	100% (R4~R8)	◎	保護者へ確認する項目について、様式を定め、共通の様式を使用することにより、必要な事項の確認漏れを防ぎ、手続きの回数を減らしている。
⑭学校教育に関する情報共有	担当者会議の回数	1回	2回	2回/年 (R4~R8)	◎	第1回は書面実施、第2回はオンライン実施で担当者会議を実施し、特色ある取組を情報交換する有益な機会となった。
⑮交流学习	交流学习の実施回数	2回	2回	2回/年 (R4~R8)	◎	オンラインでの交流と対面での交流を行った。学習環境の異なる学校とのオンラインによる交流はもちろん、異なる環境での体験学習や対面での合同学習により有益な交流学习となった。
⑯夜間中学設置の検討・準備・運営	方針の決定	—	方針の決定	方針の決定 (R4)	—	—
⑰E S D実践	E S D・S D G s 研修会の参加者数	338人(累計) (H29~R2)	109人	450人(累計) (R4~R8)	○	令和4年度も引き続きコロナ禍であったが、令和3年度に開催できなかった研修を令和4年度に開催したこともあり、年間の目標90人を達成することができた。
⑱岡山芸術創造劇場を活用した文化連携	施設整備	—	—	施設稼働 (R5)	—	—
⑲トップスポーツチームの支援	各チームのホームゲーム平均入場者数(4チーム計)	5,800人	10,700人	13,300人	○	コロナ感染拡大が落ち着き、入場制限も無くなったことから市民の観戦意欲や、チームと連携したイベント等への参加意欲がコロナ前の状態に戻ってきたことに伴い基準値を上回った。
⑳有害鳥獣対策研究	担当者会議の回数	2回/年 (H29~R2)	1回	2回以上/年 (R4~R8)	×	当初は夏頃開催予定であったが、コロナウイルス第7波の影響があったため、感染リスクの低くなった2月に1回実施とした。
㉑学生等による地域課題への取組	連携市町の課題に取り組むグループ数	—	1組	5組(累計) (R4~R8)	○	連携市町の課題を紹介し、参加学生の活動内容とマッチングすることができ、毎年1組は連携市町の課題解決に取り組む目標を達成できた。
㉒風水害対応力の向上	施設整備	—	—	整備完了 (R6)	—	—
㉓ごみ焼却処理相互支援	ごみ処理受入率	100% (H30)	—	100% (R4~R8)	—	—
㉔広域ごみ処理施設整備	施設整備	—	—	完工	—	—
㉕瀬戸内の海洋保全	清掃活動への参加者数	1,000人/年 (R3)	4,311人/年	1,500人/年 (R8)	◎	集客力のあるイベントの中でごみ拾いを実施するなど連携市町の状況に応じた取組が実施された結果、目標値を上回る参加者となった。

事務事業名	重要業績評価指標(KPI)	基準値(R2)	現状値(R4)	目標値(R8)	基準値に対する現状値の評価(目標値に達している場合は目標値に対する評価) ※基準値がないものは基準値を0とする	
						状況認識・要因分析等
㉖気候変動対策	共同実施する事業件数	1件 (R3)	4件	4件	◎	令和4年度は、ゼロカーボン研究会、一斉ライトダウンキャンペーン、Jクレジット制度、太陽光発電設備等共同購入の4つの共同事業を実施し、目標値を達成することができた。
㉗水辺教室等環境教育の推進	連携して行う自然体験行事数	1回	7回	6回	◎	数値目標を達成できており、事業の経過は良好である。
㉘路線バス等生活交通の維持・確保	主要バス路線利用者数	24,612人/日	27,530人/日	26,079人/日	◎	岡山市でのハレカハーフによる運賃割引等の効果もあり、コロナ禍にもかかわらず、R3(24132人/日)と比較して大きく回復しており、今後のさらなる利用増が期待される
㉙移住促進連携	移住定住支援により圏域内に移住した人数	400人	520人	600人	○	コロナ禍でもオンラインや対面で継続的に相談事業を続けたことに加えて、コロナ禍の長期化による働き方の変化などもあり、移住希望していた人達が実際に行動へと移した結果が現れた。
㊱公共施設の相互利用の仕組み構築	住民一人あたりの図書館年間貸出冊数	6.1冊 (R1)	5.6冊	6.2冊 (R8)	×	基準値から減の数値であるが、この間にコロナ禍があり、R3年度の4.9冊よりは持ち直してきている。図書館の開館・行事などもコロナ禍前と同程度に行えるようになっており、R5年度も基準値に近づける様にしていく。
	子どもパスポート掲載施設の利用者数(利用者数を把握していない2施設を除く。)	1,195,144人/年	1,810,240人/年	2,000,000人/年	○	令和3年度に岡山県で出されていた新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態措置、まん延防止等重点措置などが、令和4年度には出されなかったため、外出する人が増加した。
㊲包括連携協定に基づく公民連携	連携中枢都市圏を対象とする協定の締結・改訂数	—	1件	5件(累計) (R4~R8)	○	令和4年度に新たに包括連携協定を締結した企業との間に、「岡山連携中枢都市圏の取組に関すること」を連携事項に盛り込み、連携市町が岡山市の包括連携協定を活用できるようにした。
㊳市民協働事業の推進	市民協働事業への参加者数	157人/年 (H29~R2)	219人	800人(累計) (R4~R8)	○	新型コロナウイルス感染症の影響により、コーディネーター派遣の実施に至らなかったが、令和4年度から新たに「災害ボランティア講座の開催」を連携事業に盛り込み、連携市町が当該講座に参加できるようにしたため、参加者数は増加した。
㊴外部専門人材の活用	研修会等実施回数	—	7回	5回(累計) (R4~R8)	◎	令和4年度は、岡山市で実績のあるDX分野における個別相談会を試行的に開催し、4市町が活用した。
㊵人事交流・育成	圏域内市町職員を対象とする研修実施回数	6回	6回	6回/年 (R4~R8)	◎	コロナ禍ではあったものの、目標値と同数の研修を実施した。以前から継続的に実施してきた内容の研修だけでなく、時代の要請に応じた新たな内容の研修も企画したことにより、参加者数を確保しつつ目標の回数を実施できた。
㊶圏域データ等の活用	研修参加人数	55人 (R1)	53人	60人/年 (R4~R8)	×	研修会の開催にあたっては、ハイブリッド形式と会場集合形式とで、参加市町(参加者)の数に差が出る結果となり、内容の検討とともに、より多くの参加が得られやすい形式を採用する必要がある。
㊷パートナーシップ宣誓制度の導入促進及び都市間相互利用	情報交換会の回数	3回 (R3)	3回	3回/年 (R4~R8)	◎	数値目標を達成できており、事業の経過は良好である。
㊸行政サービス提供機能の最適化	研修参加者人数	—	7人	80人(累計) (R4~R8)	○	R4は研修会を1回しか開催しなかったことと、出席者が各市町から1名ずつであったこともあり、少ない実績値となっている。R5は複数回研修会等の開催を予定しており、参加市町に対して複数名の出席等、積極的な参加を求めていることとしている。
㊹外国人コミュニケーション支援	方針の決定	—	—	方針の決定 (R5)	—	—
㊺公共施設の質・量の適正化に向けた仕組み構築	「見える化」事業数	1事業	2事業	3事業	○	2事業目の施設分野を文化施設に決定し、文化施設を紹介するホームページとチラシを作成した。
	瀬戸内市新火葬場(仮称)施設整備	—	—	施設稼働 (R7)	—	—